

《横浜市感染症臨時情報》風しん第14報

風しん患者報告数が昨年の3倍を超えました。

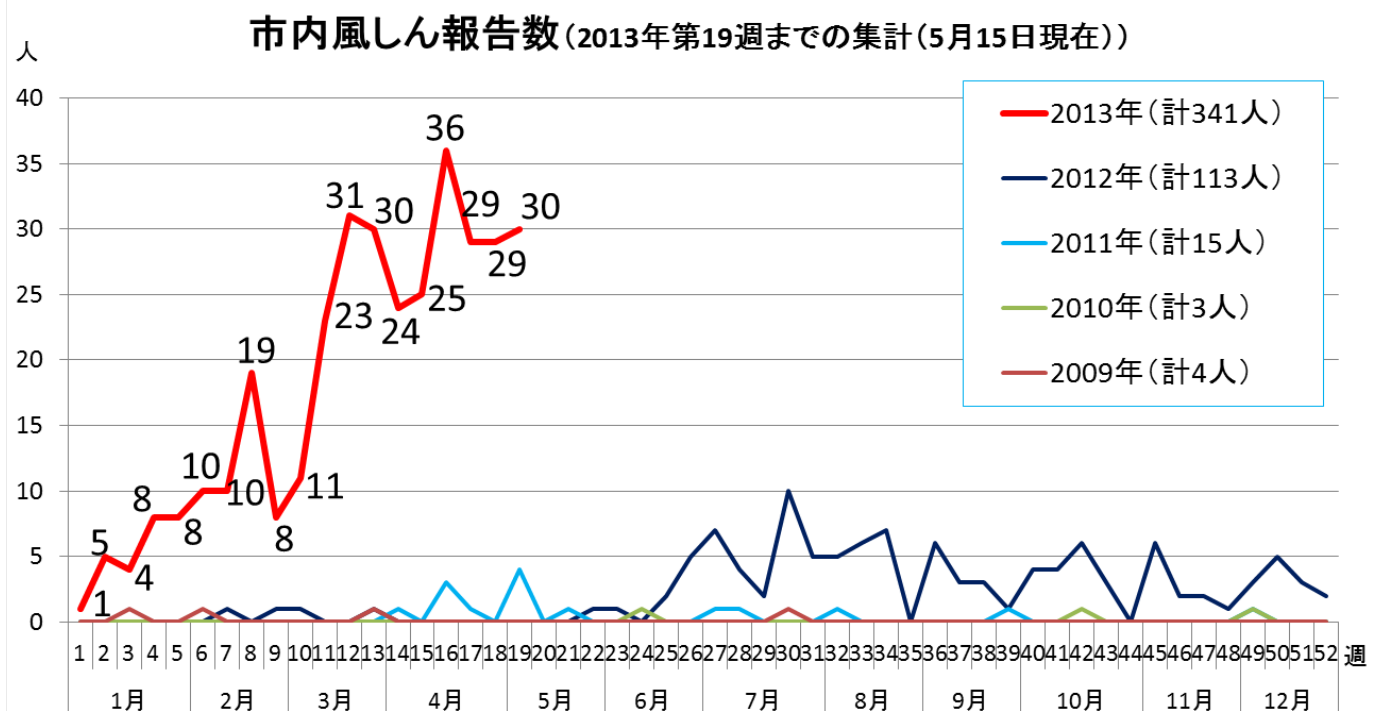
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風しんにかかると、白内障、先天性心疾患、難聴などを主な症状とする「**先天性風しん症候群**」の子どもが生まれる可能性があります。
- ◇ 流行の中心は成人男性ですが、**女性の患者も報告**されています。
- ◇ **妊婦さんと接する家族や周囲の方(友人や職場の同僚等)**は、予防接種を受けましょう。
- ◇ 「**妊娠を予定・希望している女性**」、「**妊娠している女性の夫**」を対象に予防接種の助成※を実施しています。
- ◇ 麻しんの免疫を確実にする効果もありますので、**麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)**での接種をお勧めしています。

※ 横浜市の風しん予防接種助成の詳細(横浜市保健所:緊急風しん対策について)

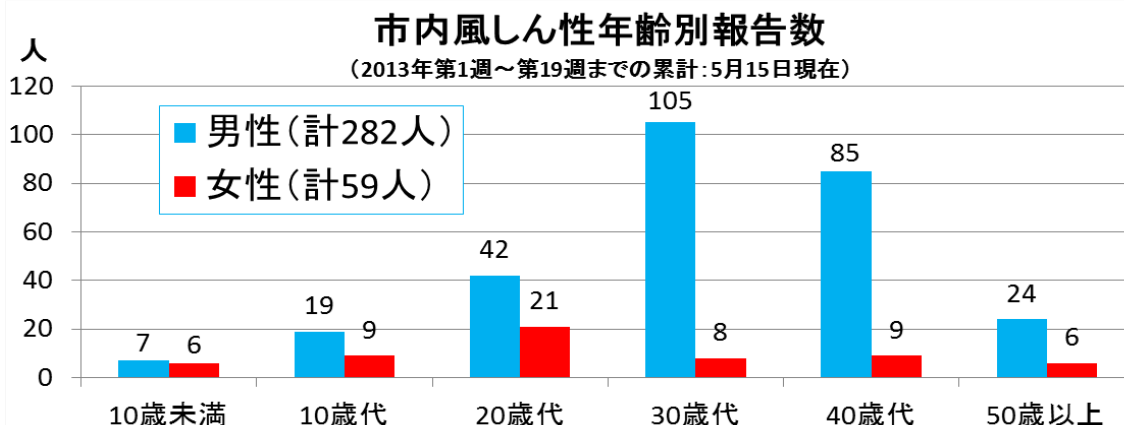
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/hokenjo/genre/kansensyo/vaccination/rubella.html>

風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診し、きちんと診断を受けましょう。

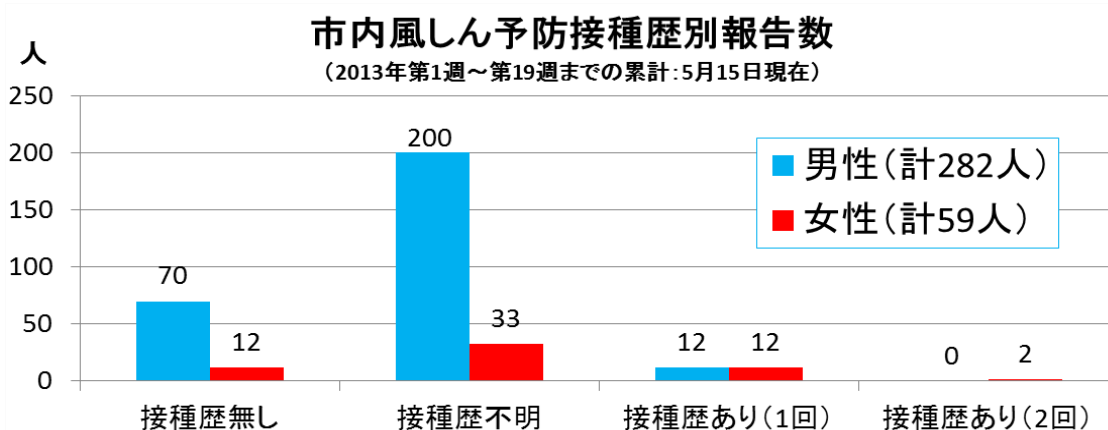
- 1 市内流行状況:今年の初めから第19週(5/6~5/12)までの患者報告数累計が341人となり、既に**昨年の総患者報告数の3倍以上**となっています。



2 届出患者の性年齢別状況:患者のほとんどが男性(82.7%:2013年の患者341人のうち282人が男性)で、特に30~40歳代の報告数が多くなっています。女性では、20歳代の報告が多くなっています。



3 予防接種の接種状況:予防接種歴が確認されたのは26人のみで、他はすべて予防接種歴が無いか、不明でした。**特に、男性では95.7%(男性282人中270人)で予防接種歴が確認されませんでした。**



4 先天性風しん症候群の発生について:市内では昨年、今年とも報告はありません。全国では、今年に入り5件(愛知県2件、東京都1件、大阪府1件、神奈川県(相模原市)1件)報告されています。

5 風しんの予防接種について

○**定期予防接種**(風しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。)

現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MR ワクチン)を2回接種します。標準的な接種期間は以下のとおりです。

1期:1歳以上2歳未満

2期:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

麻しんは感染力が強く、重症になります。麻しん撲滅のためにもMRワクチンで受けましょう!

○**任意予防接種**

・風しんの定期予防接種は昭和52年から開始されましたが、当時は対象が中学生の女子のみであったため、現在30歳代後半以上となる男性は定期予防接種の機会がありませんでした。また、平成6年に予防接種法が改正された際、男女ともに接種対象になりましたが、現在の20歳代から30歳代前半の男性の接種率は低く、これらのことが現在の流行に影響していると考えられます。

○**任意予防接種の助成**

・横浜市では、平成25年4月22日から9月30日まで、19歳以上の横浜市民で、「妊娠を予定・希望している女性(注:妊娠中は接種できません)」、「妊娠している女性の夫(婚姻関係は問いません)」を対象に麻しん風しん混合(MR)ワクチン1回分の助成(自己負担額3000円で接種できます)を行っています。定期予防接種(MR)協力医療機関で接種可能です。医療機関等、詳しくは[横浜市ホームページ](#)をご参照ください。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463

TEL 045(754)9815